

2016年度 学部卒業生数

学部	学科・専攻	一部	二部	計
経済	経済	501	68	789
	国際経済	220	—	
法	法	586	105	825
	政治	134	—	
経営	経営	590	—	590
	マーケティング	491	90	
文	会	234	—	735
	日本文学文化	1	—	
	日本語学	78	—	
	日本文学文化	120	—	
	英語米文学	163	—	
	哲	0	—	
	哲学人間学	0	—	
	歴史学	0	—	
	社会学	1	—	
	哲	70	—	
	史	154	—	
	環境地理	50	—	
人文・ジャーナリズム	98	—		
ネットワーク情報	218	—	218	
ネットワーク情報	—	—		
人間	心	87	—	228
	社会	141	—	
合	計	3937	263	4200

※学期末卒業生を含みます。

2016年度 大学院修了者数

研究科	専攻	コース	修士課程	博士後期課程	計
経済学	経済学	社会経済	2	—	10
		国際経済	0	1	
法学	民法	法学	—	0	4
		法	—	0	
文学	日本文学	日本文学	11	0	32
		英語米文学	2	0	
		哲学	1	0	
		歴史学	7	0	
		地理学	0	0	
		社会学	2	1	
経営学	経営学	経営学	3	0	4
		情報管理	1	0	
商学	商学	アカデミック	1	—	18
		ビジネス	1	—	
		アカデミック	3	—	
		プロフェッショナル	10	—	
合	計	63	5	68	

※特別措置修了者を含みます。 ※上記修了者のほかに、学位規程第14条第1項のただし書きによる学位取得者が1人います。

2016年度 専門職学位課程修了者数

法務研究科	法務専攻	計
法務研究科	法務専攻	12

### 平昌、北京五輪目標に駆ける

仲間にも恵まれ、「専大で良かった」。120%、そう思っています。(2・12面に関連記事)

「スピードスケートをやるなら専大で」と決めていましたが、入学後は環境の変化に戸惑いました。1年次に男子1000mと1500mでソチ五輪に出場したけれど、タイムを伸ばせなかったのが悔しくて。苦しい時期が続きましたが、時間配分して授業と練習のバランスを取れるようになるなど、振り返ればいい経験でした。気持ちに余裕が出てきたのは3年次になってからです。

練習の積み重ねが自分を作ってくれます。そう信じています。まだ体も未熟で、鍛えなくてはいけないことがたくさんある。やれることをやり尽くし、来年の平昌冬季五輪、そして2022年北京冬季五輪を目指します。

### 近藤太郎さん(経営) 体育賞総代

川島記念賞の学術賞と体育賞の総代2人に大学生活の思い出や今後の抱負を語ってもらった。

### 施設調査や濃密なゼミ活動

知的障がい者の就労支援をテーマにした卒論は代表論文の一本に選ばれ、大切な思い出になりました。宇都先生のご指導とゼミ仲間と議論し励まし合った濃密な時間は忘れられません。(2・4面に関連記事)

障がい者の自立支援をしたい——社会学を勉強しようと思ったきっかけです。小学校で同じクラスだった知的障がいの男子との交流で関心を持ちました。宇都先生ゼミに入り、都内の特別支援学校や就労支援施設などで聞き取り調査を重ね、障がい者施設でアルバイトも。それらを通じて、健常者・障がい者を区別するのではなく、個人として人間を見る大切さを感じました。

卒業後は都内の障がい者施設でケアスタッフとして働きますが、保護者支援にも力を入れたいと思っています。

### 入山愛さん(人間科学) 卒業生総代謝辞・学術賞総代

山の斜面変動に関する地形・地質の研究をしてきた文学部環境地理学科4年次の太田凌嘉さんは、京都大学大学院理学研究科に進む。「専大で学んだことを活かして、これからも研究に一生懸命取り組んでいきたい」と話す。

福島県いわき市出身。東日本大震災の体験から地理学に興味を抱き専大へ。大学では地形学や第四紀学の面白さに目覚め、2年次に刈谷愛彦ゼミに入ってから、フィールドワークに勤しむ日々。折られた自転車を抱え、電車で調査地の山梨県南アルプス市まで通い、山中にテントで泊まり込みながら、地すべりなど山の地形発達を丹念に調査してきた。「足もとに目を向けると、大地は語らずともいろいろのことを教えてくれている」と力を込める。

厳しく指導してきた刈谷教授は「自分の道を見極め研究に精進してほしい」と激励する。

### 大地を見つめ地形・地質を研究 文学部環境地理学科4年次 太田凌嘉さん



フィールドワーク中の太田さん。2016年10月、山梨県柳形山で。

山の斜面変動に関する地形・地質の研究をしてきた文学部環境地理学科4年次の太田凌嘉さんは、京都大学大学院理学研究科に進む。「専大で学んだことを活かして、これからも研究に一生懸命取り組んでいきたい」と話す。

福島県いわき市出身。東日本大震災の体験から地理学に興味を抱き専大へ。大学では地形学や第四紀学の面白さに目覚め、2年次に刈谷愛彦ゼミに入ってから、フィールドワークに勤しむ日々。折られた自転車を抱え、電車で調査地の山梨県南アルプス市まで通い、山中にテントで泊まり込みながら、地すべりなど山の地形発達を丹念に調査してきた。「足もとに目を向けると、大地は語らずともいろいろのことを教えてくれている」と力を込める。

厳しく指導してきた刈谷教授は「自分の道を見極め研究に精進してほしい」と激励する。

## 卒業式・学位記授与式 写真特集



奨励賞総代の牧野成謙さん



体育賞総代の近藤太郎さん



卒業10年目・高尾真人さん



小宮多喜次校友会長



### 平成28年度 専修大学大学院・法科大学院 学位記授与記念パーティー



佐々木重人学長(左端)、日高義博理事長(右端)と博士後期課程を修了した5人